



(1) STEAM

Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学・ものづくり)、Art (芸術・リベラルアーツ)、Mathematics (数学) の5つの単語の頭文字を組み合わせた教育概念で、横断的な学びにより課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成する教育。

(2) 共通・マネジメント教育

「工学の基礎と社会人の基礎、そしてこれからの技術者に求められる経営の視点」を養うため、学科・コースの枠を超え、全学生が共通して履修する教育科目。中でも1つの核となるのが「マネジメント基盤教育」で、「企業システムと経営管理」「マーケティング」「企業の国際化戦略」等の授業科目を通して、「時代や社会のニーズを知り製品開発に活かす力や組織的な経営戦略について学ぶ。

(3) 地域連携研究開発機構

学科の枠を超えて展開される研究活動を通して、地域と国の発展に貢献するとともに、大学の教育・研究水準の向上に繋げる。「デジタル医工連携」「防災・減災DX」「宇宙エコロジ」「地域イノベーション」「AI・データサイエンス」「新規事業創出・アントレプレナーシップ」の6つの研究部門において、先進的な研究が行われている。

(4) GROWTH CHALLENGE

地域における学生・高等教育機関と自治体・企業を結ぶ新たなオープンイノベーションの場として、公立諏訪東京理科大学とセイコーエプソン株式会社をはじめとする地元企業が共同で実施するプロジェクト。企業や自治体が抱える課題について、学生と社会人が一緒に解決策を考えることで、学生と社会の結び付きや新たなビジネスモデルの創出を目的としている。
◇2024年6月、公立諏訪東京理科大学とセイコーエプソン株式会社が人材協力連携協定を締結。地域社会の発展とデジタル人材育成の強化を図る。同社への新卒採用を強化するため、2026年春より公立諏訪東京理科大学からの採用枠を設ける予定。

(5) ガイダンスグループ制度

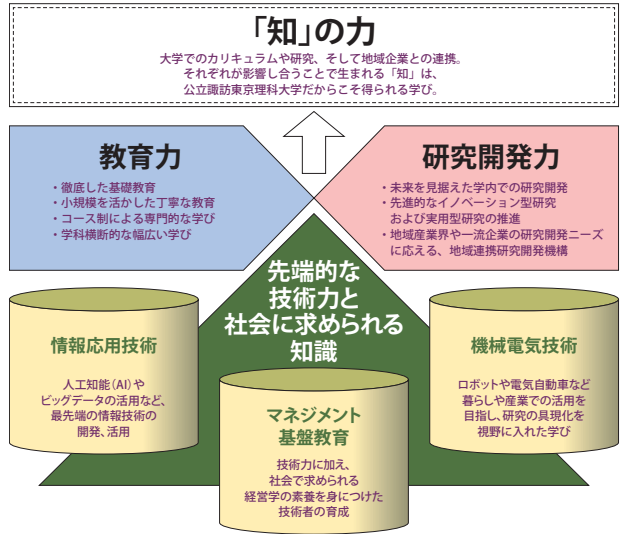
入学時から、学修面だけでなく学生生活などさまざまなサポートが受けられる制度。1人の教員が8人程度のグループを担当し、履修計画から学修指導、学生生活相談などに個別で対応。必要に応じて個人面談しながら、学生一人ひとりの状況をしっかりと確認していく。

(6) 学生チャレンジプラン

学生および教職員が企画立案した事業で、学生(学生団体、研究室等)の主体性や実践力の向上等が図れる取り組みに対し審査により助成金を配分し、学生のチャレンジ活動を支援する。24年度の助成金配分予算総額は180万円。

学びの3つの柱で支える「知」の力

公立諏訪東京理科大学では、情報応用技術、機械電気技術の2つを軸にマネジメントを加えた教育・研究により、現在、そして未来の社会において新たな価値を生み出します。



どの就業体験を行う「海外インターンシップ」をはじめとする海外研修プログラムを整備しています。また、海外協定校や元姉妹大学で現在も連携協定を結ぶ東京理科大学におけるプログラムに参加する学生

を対象とした奨学金制度を用意し、グローバルな学びを支援しています。このほか、キャンパスの国際化のため、学内で「英語村」を開催。ネイティブスピーカーとのコミュニケーションを通して、楽しみながら

実践的な英語を学ぶことができるほか、地域に居住する外国人ファミリーの自宅に短期滞在する「国内ミニホームステイ英語プログラム」も実施しています。



はま たくひろ
濱田州博 学長
1982年東京工業大学工学部卒業。87年同大学大学院理工学研究科博士課程修了。専門は繊維染色化学、繊維機能加工学、高分子化学。2015～21年信州大学学長。23年より現職。

公立諏訪東京理科大学

〒391-0292 長野県茅野市豊平5000-1 入試・広報係 TEL 0266-73-1244 https://www.sus.ac.jp/

先端的技術力と経営学の素養を修得
横断的な学びにより多角的に物事を捉え
社会的価値を創造する人材を育成

課題を発見し解決に導く
先端的な知と技能を修得

公立大学として2018年に開学した公立諏訪東京理科大学。前身の短期大学および私立大学時代を含めると30年以上の歴史を誇り、諏訪地域を中心に多くの企業や自治体と連携した教育・研究を展開してきました。「新たな中期計画では、地域や世界に貢献する人材の輩出、地域や産業に資する研究開発の推進、諏訪地域の『知の拠点』としての活動を大きな柱としています。学部教育では、基盤教育と地域からの学びを通じて、専門分野以外の幅広い素養とコミュニケーション力、自ら問題を発見し解決する力の養成、特に、STEMMの人材の養成に力を注いでいます」と濱田州博学長は説明します。

「先端的な技術力だけでなく、社会に求められる知識として、マネジメントの素養を身に付けてほしい」と思っています。物事には、さまざまな側面があります。それらを十分に理解し、利活用していく必要があります。是非一面だけではなく、多角

先導的なカリキュラムで
DX時代のIT技術者を育成

的な視点から物事を見る習慣を学生時代に付けてください。」(濱田州博学長)

情報化が高度に進展した知識集約型社会では、AIやビッグデータをはじめとする情報技術と、それらをIoT(モノのインターネット)などのシステムと組み合わせる新たなモノ(製品やサービス)として形にする技術が求められます。公立諏訪東京理科大学では、工学の多角的な視点や知識を学ぶことで、最先端の「モノづくり」「コトづくり」に必要な能力を修得します。

また、2025年からはコース・カリキュラムを改編し、情報技術に関連した知識と技術の学びを強化。早期から専門的かつ高度な学びが可能となるコース別入試を導入します(※機械電気工学科では、機械工学と電気電子工学の基礎を学んだ上で2年次からコースに分かれる「学科一括方式」での募集も実施。自治体や企業など学外との連携を継続しながら、実践的な学びの強化も図ります。

一方で、専門的な工学の知識を社会でモノづくりに役立てるためには幅広い教養とマネジメント力が必要です。そこで、全学的に導入されているのが、「共通・マネジメント教育」の中で行われる「マネジメント基盤教育」です。

「いまの時代はDX(デジタル技術による変革)が急務と言われます

最先端の研究を展開
地域との連携も推進

「大学の教育には、バックグラウンドに研究がなければいけません」と濱田州博学長は指摘します。公立諏訪東京理科大学でも、外部資金を獲得するような尖った研究がいくつも走っています。

例えば、工学部情報応用工学科では、ディープラーニング(深層学習)技術を用い、過去データから未来を予測する「時系列予測」や、医療分野での活用を目指し、学外の研究者と連携して行うVR(仮想現実)技術開発の研究を展開しています。

また、機械電気工学科では、安心・安全な未来の車社会実現のためのドライビングシミュレータを用いた事故リスク研究や、環境エネルギー問題解決のための太陽電池活用

豊かな歴史と文化の地
諏訪で学ぶ充実の4年間

キャンパスのある長野県茅野市は、「縄文のビーナス」「仮面の女神」など

海外研修プログラムなど
グローバル化にも対応

グローバル化が進む社会において技術者として世界で活躍するため、「国際交流センター」を設置。海外に拠点を持つ国内企業などの協力のもと、ベトナムなど東南アジア地域で10日間程度、製造や開発、設計など複数の国宝(土偶)が出されたことでも知られる、観光資源豊かな歴史と文化の地です。大自然に囲まれながら、東京・新宿とも約2時間車で結ばれ、豊かな自然の中、かけがえのない大学生活を過ごすことができます。「学生数は学部、大学院合わせて1300人余と小規模ではありますが、北海道・東北から九州・沖縄まで、広く全国から集まった学生たちが充実したキャンパスライフを過ごしています。教職員との距離も近く、ガイダンスグループ制度や学生チャレンジプランなど、きめ細かい学修支援制度も大きな特徴となっています。」(濱田州博学長)

キャリアサポートに関しても、就職活動のステップに合わせたガイダンスや実践的なアドバイスの提供、企業説明会や就職活動対策講座などの就職支援活動を1年次から開催。有名企業にも就職者を輩出する一方、本学の大学院をはじめ、旧帝大や著名国公立大の大学院に進学する学生もおり、元姉妹大学で現在も連携協定を結ぶ東京理科大学大学院への推薦入学制度もあります。

「バックキャストという思考法があります。10年後のなりたい自分を思い描き、そのために今、自分は何をなすべきか。そのための学習環境が本学には揃っています。街全体が一つのキャンパスのように機能している本学で、ぜひ素晴らしい学生生活を過ごしてください」と濱田州博学長は呼びかけています。

